



# 健康百話

～今回はハピネスこどもクリニックの斎藤先生にお話を伺いました。～

## 講師紹介

ハピネスこども  
クリニック

院長(医学博士)

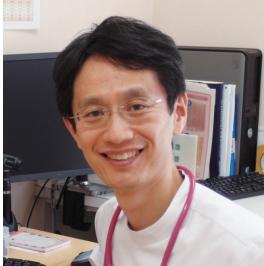
斎藤 慎一先生

(さいとう しんいち)

日本小児科学会認定小児科専門医

### プロフィール

1988年 徳島大学医学部 卒業  
1992年 さぬき市民病院小児科  
1999年 JA高知病院小児科  
2003年 ハピネスこどもクリニック 開設



### ■診療科目ー小児科

診療時間	月	火	水	木	金	土
午 前 (8:30 ~ 12:00)	○	○	○	○	○	○
午 後 (15:00 ~ 18:00)	○	○	/	○	○	/

\*休診日:日曜日 祝祭日 第4土曜日



電話:(087)848-9178  
予約専用電話:(087)848-9186  
住所:〒761-0434  
香川県高松市十川東町55-1

健康  
情報!

## 子どもの 病気(熱・力せ)と薬

小学校に入るまでの子どもは、本当によく力せを引きます。以前は、咳・鼻には力せ薬、熱には抗生剤を当たり前のように使っていました。でも、力せは自然に治ること、病原菌(ウイルス)と排除するために咳や鼻が出ること、力せ薬は咳・鼻汁を抑えるだけであること、ウイルスに抗生剤が効かないことは、医師ならだれでも知っています。ですが、家族も医師も子どもが悪化するのが心配で、「念のため薬」を使うことがあります。

しかし、抗生剤を使っても肺炎・中耳炎などの合併症を予防する効果は期待できません。また頻度は少ないものの薬には副作用があることを忘れてはいけません。抗生剤は腸内細菌などの体に必要な細菌も殺してしまいますし、抗生剤が効かない耐性菌を作り出したり、髄膜炎などの重い病気の診断を難しくしたりする危険があります。鼻水の薬には眠気の副作用があり、子どもによってはけいれんを起こしやすくなることがあります。5歳までの高熱でけいれんを起こしやすい幼児では、使用しない方が無難です。市販の吸引器で鼻汁を吸い取る方法がかなり有効で、痰がらみの咳も治まることがあります。子どもはいやがりますが、ぜひ挑戦して下さい。

力せにはいつも抗生剤・力せ薬を使う、というのはちょっと問題です。小児科では、診察や検査を駆使して、必要な薬を処方します。あるいは薬なしで経過を見る事もあります。なぜその薬を使うのか、医師に訊いてみる勇気、できれば「念のための薬」に頼らず、慎重に経過を観察し、調子が悪ければもう一度診察を受ける勇気を持って下さい。きっとその方が子どもの健康のためになると思います。



### ヴィックス ヴェポラップ

ヴィックス ヴェポラップは、鼻づまり、くしゃみ等のかぜに伴う諸症状を緩和する、体にぬるラブ・オン(塗布)タイプの鼻づまり改善薬です。

- 塗布した有効成分は、体温で温められ蒸氣となって呼吸を楽にする吸入作用と、胸・のど・背中の血行をよくして体を温める温湿作用の2つの作用でかぜに伴う諸症状に効果を発揮します。
- 生後6ヶ月以上の赤ちゃんからお年寄りまで幅広くお使いいただけます。

たくさんのママに支持される、お医者さんがつくった鼻すい器

### ママ鼻水トッテ

「ママ鼻水トッテ」は、耳鼻科の先生が考案した、お口で吸うタイプの鼻すい器です。口元で吸引力の調整ができるので、奥の鼻水までやさしく簡単に取り除くことができます。

鼻水が逆流しないダブルチューブ方式です。鼻の粘膜を傷付けない丸型なのでお子様が動いても安心してお使いいただけます。

ノーズピースとマウスピースは衛生的な抗菌仕様です。



※新生児から使用できます